

小笠原研究年報

40

2016年度
(2017年5月発行)

首都大学東京小笠原研究委員会



小 笠 原 研 究 年 報

40

2016年度
(2017年5月発行)

首都大学東京小笠原研究委員会

表紙写真（撮影：加藤英寿）

左上：聳島（大山山頂から南浜方面）

右中：父島（中央山山頂から旭山・三日月山方面）

左中：母島（堺ヶ岳山頂から乳房山方面）

右下：南硫黄島（北側の海上から松江岬方面）

小笠原研究年報 第 40 号（2016 年度）

小笠原研究年報 第 40 号 (2016 年度)

目 次

調査報告・解説

消える地名か 武田牧場

.....延島 冬生 1

ノヤギの駆除が外来植物ギンネムの繁茂を促進する

.....大澤 剛士・畑 憲治・可知 直毅 13

トクサバモクマオウの駆除が土壌含水量に及ぼす影響

.....畑 憲治・川上 和人・可知 直毅 25

父島乾性低木林における短期的および長期的な乾燥に対する樹木の生理応答

.....吉村 謙一・才木 真太郎・石田 厚 37

父島と母島におけるグリーンアノールが利用する微小環境の島間差と雌雄差

.....安西 航・高橋 洋生・戸田 光彦・遠藤 秀紀 45

小笠原諸島聳島列島におけるオガサワラヤモリのクローン多型とその分布

.....村上 勇樹 53

小笠原諸島父島におけるヨコエビ類について

.....濱邊 昂平 59

二見港における港湾衛生調査と蚊族成虫用トラップの検討

.....山内 繁・笠井 あすか 73

年次報告と資料

2016 年度の研究体制 89

2016 年度小笠原研究費会計報告 90

平成 28 年度小笠原研究施設利用者一覧 91

平成 28 年度小笠原研究施設等月別利用状況 99

小笠原研究施設の利用について 100

「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research」について 101

首都大学東京小笠原研究施設使用要綱 106

年次報告と資料

2016 年度の研究体制

小笠原研究委員会

1. 委員（規程第3条）

都市教養学部	人文社会系	教授	谷口 央
	人文社会系	教授	河原 温
都市教養学部	法学系	教授	篠田 昌志
都市教養学部	経営学系	准教授	高橋 勅徳
都市教養学部	理工学系	准教授	江口 克之
都市環境学部		教授	菊地 俊夫
システムデザイン学部		准教授	金崎 雅博
健康福祉学部		教授	福士 政広
大学教育センター		教授	立花 宏
オープンユニバーシティ		准教授	稲山 貴代
都市教養学部理工学系長			可知 直毅
首都大学東京管理部長			富澤 賢一

2. 事務局

理系管理課	庶務係	春日 美菜
	庶務係長	土屋 浩之

専門部会

1. 学内専門委員（規程第8条第3項）

総括	都市教養学部	理工学系	教授	可知 直毅 ※
庶務	都市教養学部	理工学系	助教	加藤 英寿（利用窓口）
	都市環境学部		助教	山崎 公子（小笠原クラブ）
	都市環境学部		准教授	沼田 真也（教育プログラム）
会計	都市教養学部	理工学系	教授	可知 直毅 ※
編集	都市教養学部	人文社会系	教授	ロング ダニエル
	都市教養学部	理工学系	助教	加藤 英寿
	都市教養学部	理工学系	教授	可知 直毅 ※

2. 学外専門委員（規程第8条第4項）

岡 秀一（元首都大学東京都市環境学部／客員研究員）

※ 第3条委員を兼ねる

2016 年度小笠原研究費会計報告

予 算		
1. 総 額		1,497,000 円
2. 支 出		
1) 旅 費		485,000 円
2) 物品費	小笠原研究年報 39 号 (2015 年度) /	
	Ogasawara Research No 42 (2015 年度) 印刷費	700,000 円
	郵送費	45,000 円
	ホームページ管理費	150,000 円
	小笠原研究施設消耗品	5,000 円
小計		900,000 円
3) 謝 金	(発送リスト管理・発送・HP 管理アルバイト)	112,000 円
計		1,497,000 円
決 算		
1. 総 額		1,517,101 円
2. 支 出		
1) 旅 費	小笠原 2 回、八丈島 1 回、奄美大島 1 回	505,101 円
小計		505,101 円*
2) 物品費	小笠原研究年報 39 号 印刷費 (含メール便費)	325,620 円
	Ogasawara Research No 42 印刷費	339,120 円
	ホームページ管理費	180,360 円
	消耗品 (文具類等)	54,900 円
小計		900,000 円
3) 謝 金	送付リスト管理・年報発送・HP 管理 返 納	111,600 円 400 円
小計		112,000 円
計		1,517,101 円

*旅費の不足分 (20,101 円) については共通予算から補填。

平成 28 年度 小笠原研究施設利用者一覧

期 間	所属・職・氏名	目的
28. 4. 1 ～ 29. 3. 31	環境省小笠原自然保護官事務所 首席自然保護官 尼子直輝 自然保護官 岸 秀蔵 派遣職員 稲田真由 自然環境研究センター 研究員 小山田佑輔 飼育作業員 手塚幸恵 研究員 鶴 智之 飼育作業員 和田勉之 飼育作業員 橋本 愛 飼育作業員 スフォルツァ由野 研究員 涌井 茜 飼育作業員 田村 結	関東地方環境事務所との協定および覚書に基づくオガサワラハンミョウの飼育実験
28. 5. 10 ～ 28. 5. 19	理工学研究科 客員研究員 三谷奈保 Landcare Research 社 研究員 A. デイビッド M. ラサム 日本大学 学部生 織田大原冬樹 学部生 上原あかり 学部生 増子博仁	小笠原諸島における外来動物の防除と生態に関する研究
28. 5. 10 ～ 28. 6. 1	理工学研究科 院生 小林寛昂 都市教養学部 理工学系 学部生 山本彩華	父島の外来アリ類の分布状況調査、 ナンヨウテンコクオオズアリの分布調査
28. 5. 29 ～ 28. 6. 14	理工学研究科 院生 村上勇樹	小笠原諸島におけるヤモリ類の分布と集団遺伝構造調査
28. 6. 5 ～ 28. 6. 14	都市教養学部 理工学系 学部生 中嶋溪太	父島のクモ類の分布状況調査、外来動物によるクモ類分布への影響
28. 6. 11 ～ 28. 6. 26	理工学研究科 助教 加藤英寿	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
28. 6. 14 ～ 28. 6. 20	理工学研究科 客員研究員 荻部治紀 神奈川県立生命の星・地球博物館 外来研究員 加賀玲子	小笠原諸島の在来昆虫の生態とその保全に関する研究

期 間	所属・職・氏名	目的
28. 6. 17 ～ 28. 6. 26	理工学研究科 客員研究員 山内 繁 東京検疫所 検疫医療専門職 笠井あすか	小笠原父島二見港における検疫感染症等媒介動物の生息状況調査試行と定期的な港湾衛生調査実施の検討
28. 6. 22 ～ 28. 7. 6	理工学研究科 客員研究員 鈴木節子 客員研究員 須貝杏子	小笠原の植物の遺伝的多様性に関する研究
28. 6. 22 ～ 28. 7. 12	理工学研究科 客員研究員 川上和人	小笠原の鳥類相と生態に関する研究
28. 6. 23 ～ 28. 7. 6	京都大学 ポスドク研究員 吉村謙一	小笠原の植物の生理生態学的研究
28. 6. 23 ～ 28. 7. 12	理工学研究科 特任研究員 畑 憲治	小笠原諸島の外来生物の駆除が在来生態系に及ぼす影響の評価に関する研究
28. 6. 23 ～ 28. 8. 4	理工学研究科 特別研究学生 才木真太郎 特別研究学生 甲野裕理 日本大学 院生 木村美久	小笠原の植物の生理生態学的研究
28. 6. 26 ～ 28. 7. 12	理工学研究科 客員研究員 和田慎一郎	小笠原諸島における陸産貝類の進化、生態および保全に関する研究
28. 7. 3 ～ 28. 7. 6	理工学研究科 客員研究員 石田 厚 山梨県富士山科学研究所 主幹研究員 中野隆志	小笠原の植物の生理生態学的研究
28. 7. 3 ～ 28. 7. 12	理工学研究科 客員研究員 平館俊太郎 客員研究員 大澤剛士	外来生物駆除後の海洋島の生態系変化に関する研究
28. 7. 3 ～ 28. 7. 12	理工学研究科 院生 庄司一貴 都市教養学部 理工学系 学部生 多田浩優	外来生物駆除後の海洋島の生態系変化に関する研究
28. 7. 3 ～ 28. 7. 24	理工学研究科 院生 村上勇樹	小笠原諸島におけるヤモリ類の分布と集団遺伝構造調査
28. 7. 21 ～ 28. 8. 4	京都大学 ポスドク研究員 吉村謙一	小笠原の植物の生理生態学的研究
28. 7. 24 ～ 28. 8. 4	北里大学 講師 坂田 剛 院生 松山 泰	小笠原の植物の生理生態学的研究

期 間	所属・職・氏名	目的
28. 7. 24 ～ 28. 8. 10	理工学研究科 研究生 加藤朗子	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
28. 8. 14 ～ 28. 8. 18	人文科学研究科 教授 ロング・ダニエル 院生 甲賀真広 院生 李 舜炯	小笠原諸島の言語に関する調査
28. 8. 18 ～ 28. 8. 24	都市教養学部 人文・社会科学系 学部生 高野 駿	小笠原諸島の言語に関する調査
28. 8. 18 ～ 28. 8. 27	理工学研究科 院生 小林寛昂 院生 山田真子 都市教養学部 理工学系 学部生 山本彩華	父島の外来アリ類の分布状況調査、ナンヨウ テンコクオオズアリの分布調査
28. 8. 19 ～ 28. 8. 24	人文科学研究科 教授 ロング・ダニエル 院生 甲賀真広 院生 李 舜炯	小笠原諸島の言語に関する調査
28. 8. 24 ～ 28. 8. 27	理工学研究科 助教 加藤英寿	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
28. 9. 2 ～ 28. 9. 11	都市教養学部 理工学系 学部生 中嶋溪太	父島・母島のクモ類の分布状況調査、外来動物によるクモ類分布への影響
28. 9. 7 ～ 28. 9. 11	理工学研究科 客員研究員 堀越和夫 京都大学 院生 小村健人	小笠原諸島の海鳥類の食性調査
28. 9. 14 ～ 28. 9. 24	理工学研究科 客員研究員 和田慎一郎 東北大学 院生 内田翔太	小笠原諸島における陸産貝類の保全に関する研究
28. 9. 15 ～ 28. 9. 18	理工額研究科 客員研究員 山本 薫 Yale University 院生 Elizabeth Spriggs	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
28. 9. 15 ～ 28. 9. 25	理工学研究科 助教 加藤英寿	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究

期 間	所属・職・氏名	目的
28. 9. 15 ～ 28. 9. 25	理工学研究科 客員研究員 堀越和夫 琉球大学・熱帯生物研究センター 博士研究員 吉田隆太 千葉県立中央博物館分館海の博物館 主任上席研究員 立川浩之	小笠原諸島の海鳥類の食性調査
28. 9. 20 ～ 28. 10. 1	都市環境科学研究科 助教 山崎公子 院生 鈴木健太 都市環境学部 学部生 柳 智之 学部生 小泉柊太	小笠原村水道施設の調査
28. 9. 22 ～ 28. 9. 28	串本海中公園 館長 野村恵一	小笠原諸島の海鳥類の食性調査
28. 9. 28 ～ 28. 9. 30	理工学研究科 客員研究員 須貝杏子	小笠原の植物の遺伝的多様性に関する研究
28. 9. 28 ～ 28. 10. 1	都市教養学部 理工学系 学部生 宮川彩花 学部生 古井佳奈 学部生 清水優紀 学部生 内田沙綺 学部生 金城 薫	小笠原における生命科学自主研究
28. 9. 30 ～ 28. 10. 9	小笠原自然文化研究所 臨時職員 向 哲嗣 沖縄県立芸術大学 准教授 藤田喜久 クラブノア母島 センター長 下條敬明	小笠原諸島の海鳥類の食性調査
28. 10. 5 ～ 28. 10. 9	理工学研究科 客員研究員 須貝杏子	小笠原の植物の遺伝的多様性に関する研究
28. 10. 9 ～ 28. 10. 23	理工学研究科 客員研究員 和田慎一郎 東北大学 院生 内田翔太	小笠原諸島における陸産貝類の保全に関する研究
28. 10. 20 ～ 28. 10. 23	理工学研究科 客員研究員 三谷奈保 日本大学 学部生 堂下夏美 学部生 風間瑤平 学部生 堀越結人 学部生 上原あかり 学部生 伊藤裕之輔	小笠原諸島における外来動物の防除と生態に関する研究

期 間	所属・職・氏名	目的
28. 10. 20 ～ 28. 10. 30	理工学研究科 客員研究員 荏部治紀 神奈川県立生命の星・地球博 物館 外来研究員 加賀玲子	小笠原諸島の在来昆虫の生態とその保全に関する研究
28. 10. 26 ～ 28. 10. 30	理工学研究科 客員研究員 和田慎一郎 東北大学 院生 内田翔太	小笠原諸島における陸産貝類の保全に関する研究
28. 10. 27 ～ 28. 11. 12	理工学研究科 院生 小林 寛昂	父島の外来アリ類の分布状況調査、ナンヨウ テンコクオオズアリの分布調査
28. 11. 2 ～ 28. 11. 5	人文科学研究科 教授 ロング・ダニエル 院生 甲賀真広 研究生 チェ スンジン 都市教養学部 人文・社会学 系 留学生 フォルク ヴィクトリア 留学生 オーローフソン スティーナ 留学生 レ ポデル ローランス 留学生 ウンガー コルネリア 留学生 パース ヨハネス 留学生 オヤラ イエレ 学部生 上原健太郎 学部生 塚本昇吾 学部生 本岡智史 学部生 塚原義臯 学部生 橋本有美 学部生 大塚真澄	小笠原諸島の言語に関する調査
28. 11. 9 ～ 28. 11. 19	都市教養学部 理工学系 学部生 山本彩華 学部生 小倉結衣	父島におけるナンヨウテンコクオオズアリを 含む外来アリ類の分布調査
28. 11. 16 ～ 28. 12. 3	理工学研究科 特任研究員 畑 憲治	小笠原諸島の外来生物の駆除が在来生態系に 及ぼす影響の評価に関する研究
28. 11. 21 ～ 28. 12. 3	理工学研究科 客員研究員 石田 厚 日本大学 院生 木村美久	小笠原の植物の生理生態学的研究
28. 11. 24 ～ 28. 12. 3	京都大学 ポストドク研究員 吉村謙一 日本大学 学部生 山形航大	小笠原の植物の生理生態学的研究

期 間	所属・職・氏名	目的
28. 11. 30 ～ 28. 12. 3	山梨県富士山科学研究所 研究員 安田泰輔	小笠原の植物の生理生態学的研究
28. 12. 6 ～ 28. 12. 15	理工学研究科 助教 加藤英寿 院生 Wita Yulianti 研究生 加藤朗子	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
28. 12. 6 ～ 29. 3. 31	環境省小笠原自然保護官事務所 首席自然保護官 尼子直輝 自然保護官 岸 秀蔵 自然環境研究センター 研究員 鶴 智之 研究員 涌井 茜	関東地方環境事務所との協定および覚書に基づくカタマイマイ属の飼育実験
28. 12. 12 ～ 28. 12. 17	理工学研究科 客員研究員 須貝杏子	小笠原の植物の遺伝的多様性に関する研究
28. 12. 22 ～ 28. 12. 27	理工学研究科 客員研究員 織 朱實	小笠原諸島のネズミ対策におけるリスクコミュニケーションの研究
29. 1. 11 ～ 29. 1. 21	理工学研究科 客員研究員 荻部治紀 神奈川県立生命の星・地球博物館 外来研究員 加賀玲子	小笠原諸島の在来昆虫の生態とその保全に関する研究
29. 2. 7 ～ 29. 2. 14	串本海中公園 館長 野村恵一 琉球大学熱帯生物研究センター 博士研究員 吉田隆太	小笠原諸島の生物相とその保全に関する研究
29. 2. 7 ～ 29. 2. 20	理工学研究科 客員研究員 堀越和夫	小笠原諸島の生物相とその保全に関する研究
29. 2. 11 ～ 29. 2. 20	小笠原自然文化研究所 臨時職員 向 哲嗣 沖縄県立芸術大学 准教授 藤田喜久 神奈川県立生命の星・地球博物館 登録ボランティア 内野啓道 クラブノア母島 センター長 下條敬明	小笠原諸島の生物相とその保全に関する研究

期 間	所属・職・氏名	目的
29. 2. 11 ～ 29. 2. 20	理工学研究科 客員研究員 荻部治紀 神奈川県立生命の星・地球博 物館 外来研究員 加賀玲子 神奈川トンボ調査・保全ネッ トワーク 中沢 章	小笠原諸島の在来昆虫の生態とその保全に関 する研究
29. 2. 18 ～ 29. 2. 20	理工学研究科 客員研究員 石田 厚 京都大学 院生 甲野裕理 研究員 吉村謙一	小笠原の植物の生理生態学的研究
29. 3. 1 ～ 29. 3. 4	理工学研究科 准教授 Adam L.Cronin	小笠原諸島のアリ類に関する研究
29. 3. 1 ～ 29. 3. 16	理工学研究科 客員研究員 堀越和夫	小笠原諸島の生物相とその保全に関する研究
29. 3. 19 ～ 29. 3. 22	理工学研究科 客員研究員 織 朱實 上智大学 院生 楊 全威 院生 SOPHIE EBOT AGBORABANG 院生 PAN YING YING 院生 羅 述蒙 院生 白 楊 院生 ERDENEBAT MUNKHTUUL 院生 ZHANG WEITONG 院生 KYOMUKAMA DAVID 院生 SHIM JIHYUN 院生 水流文子 院生 WEI CHENYAMENG 院生 沈 鑫 院生 竹田有里 院生 王 思宇 院生 ARVINTSOGT URGAMAL 院生 LIU HUAN	小笠原諸島におけるリスクコミュニケーションの研究

期 間	所属・職・氏名	目的
29. 3. 26 ～ 29. 3. 29	人文科学研究科 教授 ロング・ダニエル 人文・社会系 学部生 小川寛人 学部生 石原日向花 学部生 根本奈月 法学系 学部生 吉本一輝 理工学研究科 教授 可知直毅 准教授 黒川 信 R A 近藤日名子 理工学系 学部生 五十嵐公太 学部生 古井佳奈 学部生 金室早貴 学部生 宮川彩花 都市環境科学研究科 教授 松山 洋 都市環境学部 学部生 小林 輔 学部生 鈴木遥子 システムデザイン学部 学部生 北島 拓 学部生 岡村夏琳 健康福祉学部 学部生 松本朱永	教養科目「自然と社会と文化」小笠原コース

平成 28 年度 小笠原研究施設等月別利用状況

(単位、人・日)

区 分			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
施設利用者	教 員 職 員	実利用者数	0	0	2	1	3	2	1	2	2	0	0	6	19 (0)
		延利用者数	0	0	24	17	15	22	1	19	13	0	0	24	135 (0)
	院 生 学部生	実利用者数	0	3	4	5	8	9	9	16	1	0	0	13	68 (0)
		延利用者数	0	47	26	62	59	58	13	86	10	0	0	52	413 (0)
	客 員 研究員 研究生 研修員	実利用者数	0 (0)	5 (4)	13 (4)	17 (6)	7 (4)	14 (9)	16 (11)	6 (4)	8 (4)	2 (1)	13 (10)	18 (16)	119 (73)
		延利用者数	0 (0)	50 (40)	103 (33)	210 (68)	34 (26)	86 (52)	118 (78)	39 (25)	37 (12)	22 (11)	109 (82)	84 (64)	892 (491)
	環境省・ 自然環境 研究セン ター職員	実利用者数	11 (11)	11 (11)	11 (11)	11 (11)	11 (11)	11 (11)	11 (11)	11 (11)	15 (15)	15 (15)	15 (15)	15 (15)	15
		延利用者数													537 (537)
	月 計	実利用者数	11 (0)	19 (4)	30 (4)	34 (6)	29 (4)	36 (9)	37 (11)	35 (4)	26 (4)	17 (1)	28 (10)	52 (16)	221 (88)
		延利用者数	0 (0)	97 (40)	153 (33)	289 (68)	108 (26)	166 (52)	132 (78)	144 (25)	60 (12)	22 (11)	109 (82)	160 (64)	1977 (1028)
調 査 車 利用状況	延利用日数		0	0	9	8	7	17	1	12	9	0	0	4	67
	延 走 行 距 離 数		0	0	83	66	202	500	31	180	167	0	0	135	1364
	当 月 最 終 走 行 距 離		11080	11080	11163	11229	11431	11931	11962	12142	12309	12309	12309	12444	
27 年度 月 計	実利用者数		16 (0)	17 (1)	37 (9)	39 (10)	29 (7)	31 (6)	23 (0)	50 (7)	24 (3)	20 (4)	17 (3)	33 (0)	193 (63)
	延利用者数		15 (0)	22 (6)	199 (55)	314 (157)	150 (81)	77 (28)	60 (0)	202 (35)	121 (18)	76 (40)	40 (30)	80 (0)	1855 (949)

(注意)

- 1 延利用者数は、3泊4日の場合、4人として計上。
- 2 () 内の数は、本学に籍を持たない共同研究者であり、内数とした。
- 3 教員には、名誉教授を含む。
- 4 業者は、客員研究員研究生研修員の () に入れた。

— 小笠原研究施設利用について —

1. 小笠原での研究計画が具体的に決まったら、小笠原研究年報に記載の「首都大学東京小笠原研究施設使用要綱」をよく読み、施設使用の申請書を、使用開始希望日の2週間前までに小笠原施設利用窓口に出してください。2017年度の担当は、南大沢キャンパス・理工学研究科生命科学専攻・牧野標本館の加藤英寿（katohide@tmu.ac.jp、外線 042-677-2423、内線 2726）です。
2. 申請書には申請者の氏名、所属、身分、および施設使用者の氏名、所属、身分、目的、使用期間を明記してください。申請者は本学所属の教職員（名誉教授、客員教員、特任研究員を含む）に限ります。小笠原に関連する研究課題を持つ本学大学院生および卒業研究生は指導教員を申請者にし、施設使用者として申請できます。また、本学での身分を持たない学外共同研究者の場合は、本学所属の利用者に同行することを原則とし、施設使用者欄に氏名、所属、身分を記入してください。
3. 使用許可がおりた後、出発の前日までに理系管理課庶務係（理工学系事務室）で施設使用許可書、施設利用マニュアル、施設の鍵を受け取ってください。
4. 施設の使用に当たっては、「小笠原研究施設使用マニュアル」をよく読み、間違いないようにしてください。
5. 帰学後、必ず研究施設使用報告書を理系管理課庶務係に提出してください。
6. 施設使用マニュアル、申請書等の様式は、小笠原研究委員会のホームページ（<http://www.tmu-ogasawara.jp/>）からもダウンロードできます。

「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research」について

小笠原研究委員会は、「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research（小笠原研究）」の2種類の出版物を刊行している。「小笠原研究年報」は様々な分野・機関での研究の交流と、本学の小笠原研究成果などに関する情報を広く一般に提供することを目的とし、毎年5月に刊行する。印刷部数は500である。原稿〆切は1月20日とする。「Ogasawara Research（小笠原研究）」は研究論文を毎年5月に刊行する。印刷部数は400で、うち30部は執筆者渡し。両出版物とも学外からの投稿も歓迎する。投稿要領および原稿の体裁見本は、小笠原研究委員会のホームページ（<http://www.tmu-ogasawara.jp/>）からダウンロードできる。

既刊号の入手に関する問い合わせ先は小笠原研究委員会（生命科学コース・可知）である。なお、2005年度以後の「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research」は、首都大学東京の機関リポジトリ「みやこどり」（<https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/index.php>）でPDF版が公開されている。

「小笠原研究年報」投稿要領

原稿はワープロソフト（Microsoft Word）を使って作製する（A4横書）。
投稿にあたり希少生物等の保全に対して配慮すること。

原稿の体裁

表紙には、タイトル、著者名、著者のローマ字表記、著者の連絡先（住所、電話番号、ファックス番号、E-mail アドレス）を記入する。

本文の1ページ目の1行目にタイトル（中央揃え）を書く。2行目は空白とし、3行目以後に著者名（所属）を記入する（共著者が3名の場合は3～5行目に記入）。著者名（所属）の後に空白行を1行入れる。

本文中の見出しは以下のようにする。

要約

I. はじめに

II. 材料と方法

1. 調査地の概要

さらに細かい小見出しは著者にまかせる。

本文中ではカンマとピリオド（, .）ではなく句読点（、。）を使用する。

要約は300字以内とする。

単位・数量の書き方

例：1/3、10%、15 m、40 km、63 g、3.5 t など、メートル法に準拠する。

本文中での文献の引用の仕方

上付きの1)などは用いない。日本語文献は、著者が2名以下の場合は「伊藤（1993）、内田・松田（1990）によると・・・」、著者が3名以上の場合は「木村ら（1993）によると・・・」のように引用する。文末の（ ）内での引用は「・・・が知られている（内田・松田、1990; Wilson *et al.*, 1992）。」や「・・・である（上田ほか、1993）」のように引用する（*et al.* はイタリック。（ ）内の複数文献は半角のセミコロンで区切る）。

欧文文献は、Balford & Thomas（1992）、3名以上はBurleu *et al.*（1982）のように引用する。文末の（ ）内での引用は、「・・・が知られている（Balford & Thomas, 1992; Wilson *et al.*, 1992）。」のように引用する。

引用文献の書き方

文献の言語にかかわらず第一著者の姓をアルファベット綴りした場合の、アルファベット順に並べる。同じ著者名が続いた場合も省略しない。雑誌名や Proceedings のタイトルは省略しない。各文献の最後のピリオドは、英語・日本語ともに半角のピリオドとする。

・ 日本語の論文

町田 洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出したテルラーアカホヤ火山灰．第四紀研究 17: 143-163.

・ 日本語の報告書

加藤芳郎・宇津川徹（1981）父島の土壌．小笠原諸島自然環境現況調査報告書（2）．東京都，133-142.

・ 日本語の単行本

町田 洋・新井房夫（1992）『火山灰アトラス』東京大学出版会，276p.

・ 日本語の単行本の一部

黒田 直（1992）土壌．小笠原自然環境研究会（編）『フィールドガイド小笠原の自然—東洋のガラパゴス』古今書院，46-51.

・ 欧文の論文

Aubry MP, Berggren WA & Kent DV (1988) Paleogene geochronology; an integrated approach. *Paleoceanography* 3: 707-742.

雑誌のタイトルはイタリックにする。

・ 欧文の報告書

Olsen RR & Cameron JL (1993) Larval development of the pencil urchin. *Proceedings of 6th International Echinoderm Conference*, 807p.

報告書のタイトルはイタリックにする。

・ 欧文の単行本

Fagri K & van der Pijl L (Eds.) (1979) *The Principles of Pollination Ecology*. Pergamon Press. 500p.

本のタイトルはイタリックにする。

・欧文の単行本の一部

Hori R, Pang VPE & Jin LT (1991) On the pattern of gonadal development of the sea urchin.
In: *Biology of Echinodermata* (Ed. by Yanagisawa *et al.*), 249-255.

本のタイトルはイタリックにする。

表

表は1つずつ別紙に書かなければならない。1つの表は原則として1ページに印刷できる大きさとする。1ページを越える表については2つ以上に分割する。表のタイトルと説明は表の先頭を書く。各表のタイトルと説明は、まず「表1」のように書き、ついで表題を挙げたのち、本文を読まなくとも理解できる程度に、説明を加える。

図

各図ひとつをそれぞれ別紙にして、完全版下でそのまま製版できる状態のものを本文の最後に順番に添付する。カラー図版を希望する場合は事前に編集委員会に相談すること。図の説明は別紙にまとめて書く。各図の説明は、まず「図1」のように書き、ついで表題を挙げたのち、本文を読まなくとも理解できる程度に、説明を加える。図の作画者や写真の撮影者が著者と異なるときは、そのことを明記し、また必要な場合は、著者においてあらかじめ著作権者の許可を受けておくこと。

投稿と編集

原稿~~メ~~切は原則として毎年1月20日とする。原稿の掲載可否は編集委員で決定する。E-mailの添付ファイルあるいはCD-R等で編集委員会宛に送付する。なお添付ファイルの上限は10MBとする。本文はWindows版Microsoft Wordで作成し、1つのファイルにする（一太郎等で作成した場合はWord形式に変換する）。Macintosh版の場合は、Windowsで読める形式に変換する。使用するフォントは、小見出しはMSゴシック、それ以外はMS明朝とする。表はWindows版Microsoft Excelで作成する。複数の表が存在する場合は、表ごとにファイルを作成するか、1つのファイルに別シートとして作成する。図は、画像ファイル（EPS、TIFF、JPEGなどの形式）として作成する。複数の図が存在する場合は、図ごとにファイルを作成する。

校正

原則として初校の校正は著者が行ない、再校以降は編集者が行う。著者校正は印刷上の誤りについてだけ行ない、内容や図表の変更は認められない。

別刷

各報文について50部を著者に無料で提供する。それ以上の別刷を希望する場合は著者負担とする。

「Ogasawara Research (小笠原研究)」 投稿要領

掲載論文

主として小笠原に直接または間接に関係をもったオリジナルな学術論文、調査報告、総説など。かなり長い報文で一冊として刊行するのが適当なものを優先するが編集委員会の判断で短い報文も一冊に含めて掲載する場合がある。又、投稿にあたり希少生物等の保全に対して配慮すること。

論文の体裁と執筆要領

英文、和文ともワープロ (Microsoft Word) を使用し、そのままオフセット印刷できるように図表を張りこんだ原稿 (A4、横書き) を作成する。原稿の表にはページ番号をふらず、裏に鉛筆書きでページ番号を記入する。英語と日本語のキーワードをそれぞれ5つ以内で列挙する (英語キーワードのアルファベット順)。キーワードには、原稿タイトルに含まれる語句は含めない。英文報文には和文要旨を、和文報文には英文要旨を References または引用文献の次のページにつける。章節のたて方は基本的に執筆者に任せるが脚注はできるだけ用いない。

文献引用の仕方、文献表の書き方は英文報文の場合、日本生態学会の英文誌である Ecological Research を、和文報文の場合、日本生態学会の和文誌である 日本生態学会誌 の規定を標準として参考とされたい。詳しい情報は、日本生態学のウェブサイト (<http://www.esj.ne.jp/esj/>) の日本生態学会誌投稿規定のページおよび Ecological Research のウェブサイト (<http://www.springer.com/11284>) に記載されている。

投稿と編集

原稿メ切は原則として毎年1月20日。電子ファイルとプリントアウト1部を編集委員会あてに送付する。原稿の掲載可否は編集委員会で決定する。電子ファイルの場合、本文は Microsoft Word、表は Microsoft Excel、図・写真は EPS、TIFF、JPEG など形式とするか、これらのファイルを1つの PDF ファイルにまとめたものとする。編集は、論文の内容によっては編集委員長が委任する臨時の編集委員によって行われる場合がある。なお、出版費が限られているので、投稿予定がある場合はあらかじめ12月中に編集委員会に相談すること。投稿は首都大学東京関係者以外からも受け付ける。他の著作からの図表を引用する場合は、著者の責任で出版社など著作権者の了解を取ること。

校正

原稿はそのままオフセット印刷されるため校正は不可能であるので、投稿時に十分注意すること。

投稿者へのお願い

今後、「小笠原研究年報」「Ogasawara Research」掲載の報文の全文あるいはその一部がインターネット文献検索サイト上に掲載されることも多くなると思われます。委員会宛に要請のあったものについてはできるだけ協力していきたいと考えておりますが、その中には「著作権の処理」をすませておく必要のあるものもあります。そこで、投稿される報文につきまして、あらかじめ電子化・公開することの許諾をいただければと存じます。特にご異存なければこのページをコピーし、下段の許諾書に署名または捺印の上、小笠原研究委員会宛お送り下さい。

なお許諾を頂けない場合はその旨お知らせいただければ幸いです。

小笠原研究委員会

許 諾 書

小笠原研究委員会 殿

年度「小笠原研究年報」「Ogasawara Research」掲載の自著報文類の電子化・公開については、これを許諾します。

年 月 日

氏名：

※ 著者が複数の場合はこの用紙にまとめて署名してもけっこうです。

首都大学東京小笠原研究施設使用要綱

(趣 旨)

第 一 条 この要綱は、首都大学東京小笠原研究委員会規程第 9 条に基づき、首都大学東京小笠原研究施設（以下「小笠原施設」という。）の使用について、必要な事項を定めるものとする。

(使用目的)

第 二 条 小笠原施設の使用は、小笠原諸島の自然及び社会を研究するとともに、同諸島の発展に基礎的分野で貢献することを目的とする。

(使用資格)

第 三 条 小笠原施設を使用できる者は次の各号の一に該当する者とする。

- 一 本学の教職員（名誉教授及び客員教授（研究員）を含む。以下同じ）。
- 二 本学の学生
- 三 本学の教職員の共同研究者

2 前項第二号及び第三号に規定するものにあつては、原則として、本学教職員に同行するものとする。

(使用手続)

第 四 条 小笠原施設を使用しようとするものは、別記様式第 1 号により小笠原研究委員会委員長（以下「委員長」という。）に申請しなければならない。

2 委員長は、使用を認めたときは、別記様式第 2 号により使用許可を通知するものとする。

3 使用者は、使用許可証を所持し、必要に応じて提示しなければならない。

(使用者の義務)

第 五 条 使用者は、別に定める使用者心得を守り、施設、設備を良好な状態に保つように努めなければならない。

(現状回復等)

第 六 条 使用者は、その責に帰する事由により、建物、設備及び備品等をき損、汚染又は滅失したときは、現状に回復し又はその損害を賠償しなければならない。

(転貸等の禁止)

第 七 条 使用者は、小笠原施設をその用途以外に使用し、又は他の者に使用させてはならない。

(使用許可の取消)

第 八 条 委員長は、使用者が次の各号の一に該当する場合には使用の途中でであっても使用許可を取り消すことができる。

一 申請の内容に虚偽があったとき。

二 使用者心得を守らないとき。

2 使用許可の取消しによって生ずる使用者の損害に関しては、使用者自らがその責を負うものとする。

(使用期限の延長)

第 九 条 研究上その他の理由で使用期限の延長が必要となった場合は、事前に委員長に期限延長を申請し、その許可を得なければならない。

(使用報告書の提出)

第 十 条 使用者は、使用報告書を使用終了後、別記様式第 3 号により速やかに委員長に報告しなければならない。

(調査用自動車の使用)

第十一条 小笠原施設の調査用自動車を使用する場合は、施設の使用を申請するに併せて別記様式第 4 号により、使用の許可を理系管理課長に申請するものとする。

2 調査用自動車の使用は本学の教職員に限る。

3 使用者は、調査用自動車運転日誌を、別記様式第 5 号により提出しなければならない。

(展示ホールの公開)

第十二条 小笠原施設の展示ホールは、使用者の滞在中、住民の見学に供されるものとする。

(研究成果)

第十三条 小笠原施設においてなされた研究の成果は、小笠原施設の研究業績として登録されるものとする。

(その他)

第十四条 使用者は、この要綱に定めるもののほか、小笠原研究委員会が定める指示に従わなければならない。

首都大学東京小笠原研究施設使用申請書

平成 年 月 日

小笠原研究委員会委員長 殿

所属
職
氏名
電話

下記の通り施設使用を申請します。

記

1. 目 的（研究内容）

2. 使 用 期 間

自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日（ 名 延べ 日）

注）同一グループに使用期間が異なるメンバーが含まれる場合は、使用期間ごとに複数の申請書に分けて申請してください。

3. 使用者所属・職（学年）・氏名

※上記使用者にグループ代表者が含まれない場合 代表者氏名：_____

4. 調査用自動車

1. 使用する 2. 使用しない （どちらかを消す）

5. その他

平成 年 月 日

上記申請について 許可 ・ 不許可 とする。

委 員 長		総務担当	事務局	管理課長	庶務係長	担 当

平成 年 月 日

所属
職
氏名
電話

下記の通り施設を使用しましたので報告します。

記

- ## 2. 使用期間

自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日 (名 延べ 日)

注) 同一グループに使用期間が異なるメンバーが含まれる場合は、使用期間ごとに複数の報告書に分けて報告してください。

3. 使用者所属・職（学年）・氏名

※上記使用者にグループ代表者が含まれない場合 代表者氏名：

- #### 4. 調査用自動車

1. 使用した 平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日
2. 使用しなかった

- ## 5. その他（施設の最終点検・異常等）

☐浴室・台所・湯沸器のガス元栓 ☐施錠（窓、出入口） ☐各室消灯
☐引継（他のグループ代表者氏名： ）
☐その他（

報告内容について確認しました。平成 年 月 日

委員長

事務局	管理課長	庶務係長	担 当

小 笠 原 調 査 報 告 書

____年 ____月 ____日提出

1 研究テーマ

2 研究代表者

氏 名 _____

所 属 _____

住 所 _____

電話／ファックス _____

E-mail _____

3 共同研究者氏名（所属・学年／身分）（研究協力者を含む）

4 研究期間（西暦）____年 ____月 ____日 ～ ____年 ____月 ____日

5 小笠原研究施設利用 有 無 （該当する方に○）

6 調査の概要（書き切れない場合は別紙に）

1) 調査対象地域

2) 調査内容（400字程度）

本報告書は小笠原研究施設使用報告書とともに理工学系庶務係に提出してください。E-mailで提出することもできます。上記の報告内容を、island@tmu.ac.jpあてに送って下さい。小笠原研究施設を利用しなかった場合、および複数年にまたがる研究の場合は、各年度末までに小笠原研究委員会または上記のメールアドレスに提出してください。

〈編集担当者〉

編集委員長 可 知 直 毅（理工学研究科 教授）
編集委員 ロング ダニエル（人文科学研究科 教授）
編集委員 加 藤 英 寿（理工学研究科 助教）
編集補助 畑 憲 治（理工学研究科 特任研究員）
編集補助 加賀屋 美津子（理工学研究科 リサーチアシスタント）

印刷・発行日：2017年5月31日

発行者：首都大学東京小笠原研究委員会
委員長 可 知 直 毅
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
首都大学東京 理工学研究科内

メールアドレス island@tmu.ac.jp

ウェブサイト <http://www/tmu-ogasawara.jp/>

印刷：(株) 相模プリント
〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17
電話 042-772-1275



古紙配合率70%再生紙を使用しています